学校だより
令和3年度　2月号

なつのくも

第 149 号（R4．2．1）
練馬区立光が丘夏の雲小学校
本校ホームページ
携帯・スマホ用サイト
でもご覧ください。

厳寒を　耐え忍び咲く　梅の花　人の心も磨かれてこそ

校長　牧 野 光 洋

如月に入りました。梅が静かにほころぶ季節です。冷たい空気を通して、ほのかな香りを吸い込むと春がそこまで来ているのだな、と心が温かくなります。『梅は寒苦を経て清香をひらく』という句があります。梅の花のかぐわしい香りも、美しい姿も、厳しい冬を耐えてこそ。人もまた、苦しい経験を積むことで素晴らしい人間になるのだという意味だそうです。梅は百花の先駆けと呼ばれるように、厳しい寒さの中、一番初めに花を咲かせます。この梅の花、咲くためには寒さが必要だそうで、梅の花芽は秋になると寒さで仮眠状態に入り、さらに気温が下がって冬が訪れます。しかし、そこで一定期間、厳しい寒さにさらされると、それがスイッチになって花芽は再び眠りから覚め、蕾へと成長します。その後、寒さが和らぐのを待って花を咲かせます。梅は厳しい寒さという刺激がなければ花を咲かせることが出来ないのです。昔の人は、人間にも同じ現象を見ていました。『艱難汝を玉にす。（かんなんなんじをぎょくにす）』と言って、人間辛いところを通らなければ立派な人間にはならないと戒めたり、「若い時の苦労は買ってでもせよ」と若者に苦労をすることの大切さを言い聞かせたりします。人間も苦労の味を知り、越えて行かなければ素晴らしい花は咲かないのかもしれません。梅は、一斉に咲く桜とは違い、時には一本の梅の木がひと月近くかけて満開へと向かいます。人の苦労もサッと報われるわけではありません。じっくりと時間をかけ、静かに花開いていくものです。苦難の真っ只中にいる現社会、まるで出口がないかのように、この厳しさがどこまでも続くように感じます。しかし、いつか花開くと信じてじっと耐える。その忍耐と情熱が真に人を鍛え上げるのです。古来、人は耐え忍ぶ力を梅の中に見ていました。冷たい風雪を耐え忍び花開く。私たちもそうありたいものです。もうじき、梅の花が咲き始める頃。毎朝晴れた空を見上げながら春の兆しに胸躍る思いがしました。磨かれてこそ人は輝きます。苦労を味わい、辛苦を耐えてこそ花開く。そこに人生の妙味もあります。寒い季節、マスクの外せない日々ですが、どうぞ近くの梅の木に足を運んでみてください。寒さに耐えてほころぶ花の心意気を楽しめることと思います。